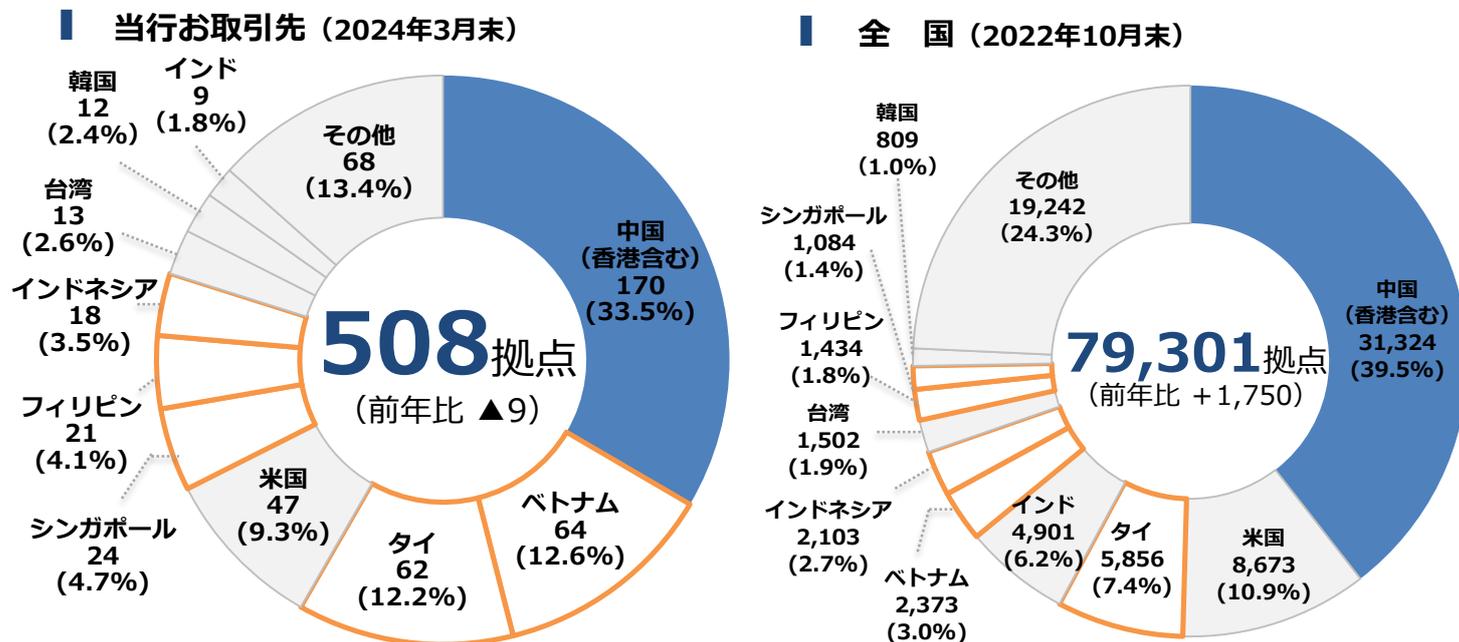


当行お取引先の海外進出拠点数調査結果（2024年3月末現在）

七十七銀行では、お取引先の海外進出状況について、2005年より毎年調査を行っております。今回のGlobal Reportでは、2024年3月末の調査結果についてお伝えいたします。

注：本調査では、原則、東名阪地域の営業店のお取引先、東名阪以外の営業店で本社が東名阪地域のお取引先を調査対象外としています。

◆海外拠点数

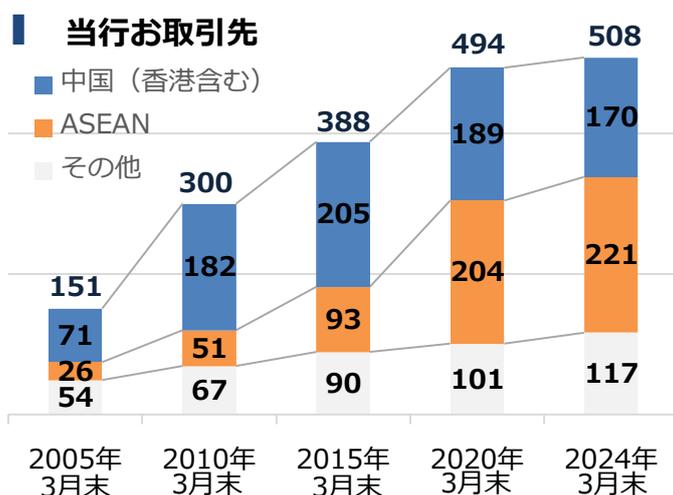


出典：外務省「海外進出日系企業拠点数調査」（2022年10月）

海外拠点数を国別に見てみると、全国・当行お取引先共に中国・香港が最も多くなっており、全体の3割～4割を占めています。また、当行お取引先のASEAN拠点数合計は中国・香港よりも多く、内訳をみると、ベトナム、タイ、シンガポールの順となっています。（全国では、タイ、ベトナム、インドネシアの順）

◆海外拠点数の推移

（単位：拠点）



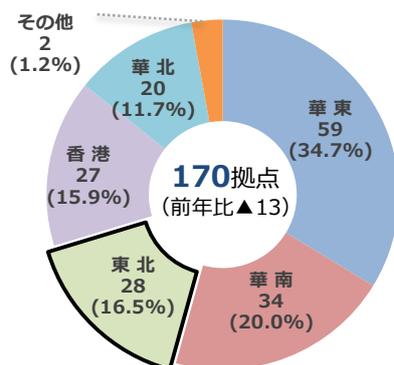
海外拠点数の推移を見てみると、調査開始以降、中国がASEANの拠点数よりも多い状況が続いていました。中国の人件費の高騰等を背景とした「チャイナプラスワン」の動き等により、タイやベトナムなどASEANへの進出が増加し、2017年3月末には、ASEANの拠点数が中国を抜きました。その後も、全体の拠点数は増加を続けていましたが、今回、新型コロナウイルスの影響もあり、調査開始以来初めて当行お取引先の海外拠点数が前年比減少（▲9）しました。

次ページで、国別拠点数第1位の中国・香港とTSMCやPSMCなど半導体関連企業の日本進出により注目を集めている台湾の動向についてみていきます。

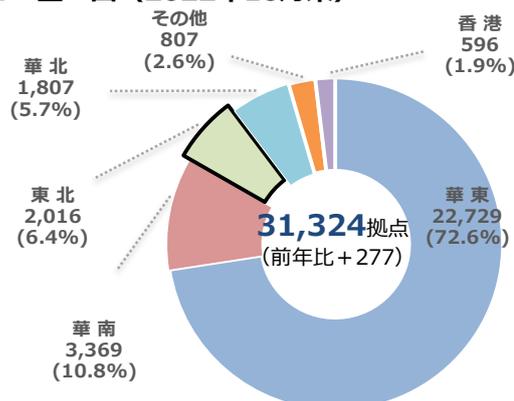
◆中国・香港

■ 当行お取引先 (2024年3月末)

- 華東 (上海、蘇州など)
- 華南 (広州、深圳など)
- 東北 (大連、瀋陽など)
- 香港
- 華北 (北京、青島など)
- その他 (重慶、西安など)



■ 全国 (2022年10月末)



出典：外務省「海外進出日系企業拠点数調査」(2022年10月)

2005年の調査開始から国別の拠点数第1位は中国・香港となっており、今回も国別調査では、依然として中国・香港が第1位ですが、拠点数は減少傾向にあります。

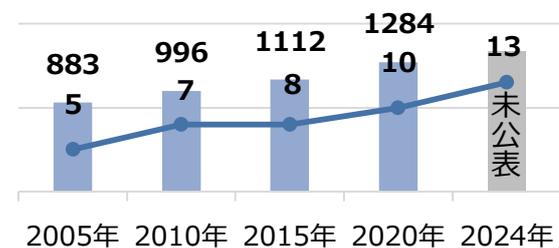
当行お取引先の中国における進出地域をみてみますと、華東、華南、東北の順である点は全国と共通しています。一方、当行お取引先においては、東北地域、特に大連(23拠点)の拠点数が多いことから、全国に比べ、東北地域への進出割合が高くなっています。なお、大連は仙台市とほぼ同緯度に位置し、仙台から直行便が運航しているなどアクセスが良好であるほか、宮城県が事務所を設置(2005年)するなど、宮城県との交流が盛んな都市のひとつです。

◆台湾

■ 拠点数の推移

(単位：拠点)

■ 全国 ● 当行



2005年 2010年 2015年 2020年 2024年

出典：外務省「海外進出日系企業拠点数調査」(2022年10月)

台湾の人口は約23百万人と日本の約5分の1程度ですが、半導体産業が国内GDPの約4割を占め、直近5年間のGDP成長率が平均3.6%と世界平均2.4%を上回る経済成長を続けています。

日系企業の拠点数の推移をみてみると増加を続けており、全体の約7割が台北市や新北市、半導体関連企業が集積する新竹市などの北部に集中しています。

■ シンガポール現地法人の設立準備について (2025年1月設立予定、2025年4月開業予定)

人口減少や国内マーケットの縮小が顕在化し、地域経済の持続的な発展に向けて、海外の成長を取り込むことの重要性が増すなか、当行では、成長著しいASEAN等において、ネットワークの更なる拡充を図り、より高度かつ専門的なソリューションを提供するため、シンガポール現地法人の設立準備を開始します。

なお、現地法人の概要および今後のスケジュール等につきましては、詳細が決定次第、改めてお知らせします。

【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。
https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/



本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。